

令和時代の湖国総合交通体系の構築に向けて

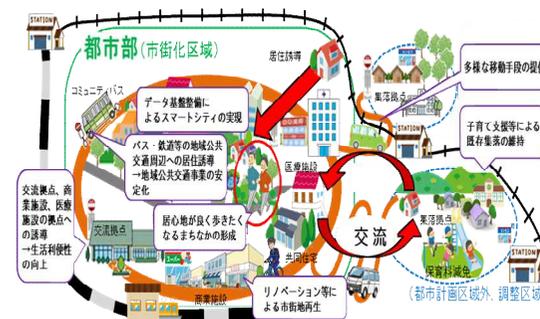
～「交通」で描く、未来へと幸せが続く滋賀～

令和時代の湖国を取り巻く状況

- 交通の要衝として発展が継続
- 人口減少・高齢化の加速化
- 自然災害の質の変化
- 新型コロナウイルスに伴う「新しい生活様式」
- 情報社会からSociety5.0へ転換
- 成熟社会に向け、SDGsの視点に立った施策の充実

目指す都市構造

- 拡散型都市構造から多核連携型都市構造へ転換
- 「住む」、「働く」、「憩う」ための様々なサービス機能が集積した多様な拠点を形成
- 拠点間、拠点までを様々な手段で結ぶ階層的な交通ネットワークの形成



持続可能な社会を支える将来の総合交通のすがた(30年後をイメージ)

□ 「鉄」の道と「アスファルト」の道のシームレスな融合

- ・県内の拠点間を「鉄道」と「道路」で円滑に結ぶ交通
- ・近畿・中部・北陸の3圏域をスムーズに結ぶ交通

- 事故、混雑がなく安全でストレスのない交通
- 人や自転車にとっても居心地がよく環境にやさしい交通
- 結節点の改善やICTの導入による乗継利便性の飛躍的な向上
- MaaSや自動運転等の導入による効率的な交通
- 県民がみんなで支える交通



MaaSや自動運転に対応した人が主役の都市交通ターミナル



自動運転の実証実験(東近江市)



デマンドタクシー(チラインコリゅうおう)



BRT(バス高速輸送システム)や自転車等を中心とした低炭素な交通システム

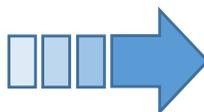


自動運転の実証実験(大津市)

「2040年、道路の景色が変わる」国土交通省より抜粋

実現に向けた取り組み

- 令和3年度「滋賀県都市計画基本方針」の策定
- 令和3年度「滋賀県道路整備マスタープラン」の改定
- 令和5年度「滋賀交通ビジョン」の見直し



交通条例の必要性について
市町、住民等と議論